「この世で一番おもしろいミクロ経済学
～だれもが合理的な人間に
なれるかもしれない16講～」



著者：ヨラム・バウマン
訳者：山形浩生
出版：ダイヤモンド社
発行：2011年11月26日

「ミクロ経済学」と聞くだけでなんだか難しく感じてしまいませんか？経済学を少し勉強してみようかなと思った人は必見です。長々とした文章の説明ではなく，身近な生活から起こる事象を取り上げ，その事象が経済とどのような関係があるのかを面白く漫画で説明しています。簡単にいうと「お笑いと経済学を両立」した１冊といえます。

この本書の著者バウマンは，自称・世界でただ一人の「お笑いエコノミスト」と言っており，「経済学の10大原理」のプレゼンテーションでは観客を爆笑をかっさらうほどの異色の経済学者です。

本書は経済学をすべての人がわかるように翻訳するための工夫がされています。たとえば、意思決定やリスクなどを取り扱いながら市場を構成する「合理的な個人」にまず最初に焦点を当て、ゲーム理論や公平性の問題を扱って数人の間でのやり取りを経由し、最後に「需要と供給」を含む印象的な枠組みの解説へと進んでいく。経済学の入門書として、非常にとっつきやすいことが最大のポイントと言えます。

グレゴリー・マンキューの「経済学の10大原理」のうち「ミクロに関する７つ」の以下の項目も本書ではわかりやすく説明されています。

1　人々はトレードオフに直面している
2　あるものの費用は、それを得るために放棄したものの価値である
3　合理的な人々は限界的な部分で考える
4　人々はさまざまなインセンティブに反応する
5　交易（取引）はすべての人々をより豊かにする

6　通常、市場は経済活動を組織する良策である
7　政府は市場のもたらす成果を改善できることもある

是非、ミクロ経済学を学んで、地球温暖化、増え続ける税金、似たりよったりの保険、マグロを絶滅から守る……などなど、今われわれを悩ませる大問題をちょっと深く理解してみませんか？

大阪市立市岡商業高等学校
教諭　大中真太郎